

倫理学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理学特論Ⅰ	ベルクソンの思想	2	村山 達也	前期 金曜日 4 講時	倫理学特論Ⅰ
倫理学特論Ⅱ	ほんとうのことば一展開編一	2	戸島 貴代志	後期 火曜日 2 講時	倫理学特論Ⅱ
倫理学特論Ⅲ	カントの実践哲学を考える	2	石田京子	前期集中 その他 連講	倫理学特論Ⅲ
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島 貴代志	前期 月曜日 5 講時	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島 貴代志	後期 月曜日 5 講時	倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅰ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	前期 水曜日 4 講時	倫理学研究演習Ⅰ
倫理学研究演習Ⅱ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	後期 水曜日 4 講時	倫理学研究演習Ⅱ
倫理学研究演習Ⅲ	感情と価値（倫理学原典講読・フランス語）	2	村山 達也	前期 水曜日 2 講時	倫理学研究演習Ⅲ
倫理学研究演習Ⅳ	デカルトとエリザベトの往復書簡を読む	2	村山 達也	後期 水曜日 2 講時	倫理学研究演習Ⅳ
倫理学研究演習Ⅴ	倫理学における論証（1）規範倫理学	2	村山 達也	前期 金曜日 2 講時	倫理学研究演習Ⅴ
倫理学研究演習Ⅵ	幸福、死、そして人生の意味をめぐる諸問題	2	村山 達也	後期 金曜日 2 講時	倫理学研究演習Ⅵ

科目名：倫理学特論 I / Ethics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15407 科目ナンバリング：LIH-PHI619J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論 I】

1. 授業題目：ベルクソンの思想
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Thought of Henri Bergson
3. 授業の目的と概要：ベルクソンの四つの主著（それぞれ自由意志、心身問題、生命論、道徳論と宗教論を扱う）について、基本的な内容を確認したうえで、いくつかの議論を取り上げ、その背景や眼目、論証構造を検討します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the thought of a French philosopher Henri Bergson (1859-1941), covering his four major works, each of which discusses free will, mind-body problem, philosophy of life, and moral philosophy.
5. 学習の到達目標：(1)ベルクソンの思想の基本的な主張とその根拠や、解釈上の重要な論点を知ることができる。
(2)ベルクソンの思想史上の位置づけを学ぶことができる。
(3)思想史を研究するのに必要なさまざまな方法を学ぶことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the core elements of the thought of Bergson and learn about general methods used in the study of the history of ideas.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：ベルクソンの思想の概要

第二回：ベルクソンの思想の特徴

第三回：テキスト読解：『直接与件』第一章冒頭部

第四回：『直接与件』における自由論

第五回：質問への回答

第六回：『物質と記憶』が取り組んだ基本的な問題

第七回：『物質と記憶』におけるイマージュ概念とその正当性

第八回：『創造的進化』第一章の概説

第九回：テキスト読解：「可能的なもの」と現実的なもの」における無の観念の批判

第一〇回：質問への回答

第一一回：『二源泉』とデュアル・プロセス理論

第一二回：価値観の伝播と感情の伝播

第一三回：テキスト読解：『二源泉』第三章（ベルクソンは神の何を証明したのか）

第一四回：質問への回答

第一五回：まとめ

以上はあくまで予定です。上記の目的の範囲内で、具体的な内容は変わる可能性があります。

なお、質問、感想用紙を毎回記入していただき、そこでの質問に答える回を適宜設けます。そうした回の内容や分量も、やはり上記の目的の範囲内で、授業計画全体に影響を及ぼすことになるでしょう。

8. 成績評価方法：

毎回の確認小テスト（60%）と学期末試験（40%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。各著作を事前に購入されたい場合には以下のものをお勧めする。

ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』平井靖史訳、ちくま学芸文庫

『物質と記憶』杉山直樹訳、白水社

『創造的進化』松井久訳、ちくま学芸文庫

『道徳と宗教の二源泉』森口美都男訳、中公クラシックス

10. 授業時間外学習：配布するプリントを事前に熟読し、自分なりの分析を試みておくこと（次回読む箇所、分析法などについては授業内で適宜指示する）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM22206 科目ナンバリング：LIH-PHI620J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論Ⅱ】

1. 授業題目：ほんとうのことば—展開編—
2. Course Title (授業題目)：Breathing True - advanced -
3. 授業の目的と概要： 倫理思想概論での中心内容をより深く展開する。ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義では、両者の中庸に本来の現象学的思考が位置することを説明し、倫理学の原点には常にかかる中庸が控えていることを、「外側から捉えることと内側から捉えること」という内容を中心にして解明する。授業は教科書『ほんとうのことば』に沿って、言葉と身体の問題を中心に、対面あるいはオンラインで進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The basic structure of both ways of thinking — thinking from the outside and thinking from the inside — is explained in this class, and the contents of "grasp from the outside and grasp from the inside" are explained specifically and systematically. The purpose is to get basic understanding of two ways of thinking.
5. 学習の到達目標：広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方をもとにして、言葉と身体の根源的な関係を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get the basic understandings of two ways of grasping things
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ものを外側から知ることと内側から知ること①
 - 第2回 ものを外側から知ることと内側から知ること②
 - 第3回 ものを外側から知ることと内側から知ること③
 - 第4回 存在と所有①
 - 第5回 存在と所有②
 - 第6回 思考の枠組み①
 - 第7回 思考の枠組み②
 - 第8回 個と場①
 - 第9回 個と場②
 - 第10回 時間・空間のサイズ①
 - 第11回 時間・空間のサイズ②
 - 第12回 言葉ともの①
 - 第13回 言葉ともの②
 - 第14回 自覚について
 - 第15回 まとめ
8. 成績評価方法：

出席3割、レポート7割
9. 教科書および参考書：

教科書として以下の図書を用いる。

戸島貴代志著『ほんとうのことば』、東北大学出版会、2021年
10. 授業時間外学習：講義内容の復讐を中心に学習する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワーは昼休み
教科書は授業時に用意しておいてください。

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture III)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：石田京子

コード：LM98833 科目ナンバリング：LIH-PHI621J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学特論Ⅲ】

1. 授業題目：カントの実践哲学を考える

2. Course Title (授業題目)：Overview of Kant's Practical Philosophy

3. 授業の目的と概要：本講義は、イマヌエル・カントの実践哲学の概観を目的とする。従来、カントの実践哲学と言えば、『道徳の形而上学の基礎づけ』（1785 年）での記述を中心に解釈されるのが常であった。しかし、実際にはカントはそのあとに『実践理性批判』や『人倫の形而上学』をはじめとして多くの著作を書き残しており、その関心も、最高の道徳法則である定言命法や意志の自由の証明にだけでなく、法や宗教、啓蒙や人類の歴史など、多岐にわたる対象に向けられている。その意味において『基礎づけ』という著作は、カントの実践哲学の出発点ではあっても、終着点ではない。本講義では、『基礎づけ』の議論をふまえつつ、カント実践哲学のもつ多面性に触れながら、自らの理性に従って生きる人間の生や共同体のあり方について考えてみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture aims to give an overview of Immanuel Kant's practical philosophy. Traditionally, Kant's practical philosophy has been understood mainly with reference to the "Groundwork to the Metaphysics of Morals" (1785). However, Kant wrote many books and articles after the publication of "Groundwork", including "Critique of Practical Reason" and "the Metaphysics of Morals". At that time, he is interested not only in the deduction of the highest moral law (the categorical imperative) and the free will, but also in a wide range of themes such as jurisprudence, religion, enlightenment, and history of mankind. In this sense, "Groundwork" is the starting point, not the ending point, of Kant's practical philosophy. In this lecture, based on the discussion of "Groundwork" and seeing various aspects of Kant's practical philosophy, we will consider the ideal way of life and community in accordance to the determination of the reason.

5. 学習の到達目標：カントの実践哲学のもつさまざまな側面を理解し、理性が道徳に対してもつ意義を自分なりに論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand various aspects of Kant's practical philosophy and discuss the significance of the reason to morality in his or her own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義で扱うトピックとスケジュールは以下の通りである。講義形式で実施し、途中で 2、3 回コメントペーパーを課すことを予定している。質問も随時受け付ける。

- 1) カントの生涯と時代
- 2) 批判と形而上学
- 3) 善意志
- 4) 定言命法と仮言命法
- 5) 人格と自律
- 6) 理性の事実
- 7) 最高善
- 8) 法
- 9) 徳と倫理
- 10) 平和
- 11) 世界市民
- 12) 啓蒙
- 13) カントと現代の人権理論 1
- 14) カントと現代の人権理論 2
- 15) まとめ

8. 成績評価方法：

コメントペーパーと最終レポートによって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書を指定せず、プリントを配布する。参考書は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：講義開始前に予習としてカントに関する概説書を少なくとも一冊読んでおくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オンラインでの開講の場合、授業の内容や方法、進度が変更される可能性がある。

科目名：倫理学総合演習Ⅰ／ Ethics (Integration Seminar I)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM11504 科目ナンバリング：LIH-PHI622J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目)：Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目は対面あるいはオンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM21505 科目ナンバリング：LIH-PHI623J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目)：Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目は対面あるいはオンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅰ／ Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM13407 科目ナンバリング：LIH-PHI624J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業は対面あるいはオンラインで進める。

1. 「現象学」と「存在論」 1

2. 「現象学」と「存在論」 2

3. 「現象学」と「存在論」 3

4. 「現象学」と「存在論」 4

5. 「現象学」と「存在論」 5

6. 「現象学」と「存在論」 6

7. 「現象学」と「存在論」 7

8. 「現象学」と「存在論」 8

9. 「現象学」と「存在論」 9

10. 「現象学」と「存在論」 10

11. 「現象学」と「存在論」 11

12. 「現象学」と「存在論」 12

13. 「現象学」と「存在論」 13

14. 「現象学」と「存在論」 14

15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書： 授業時に指示する。

サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

10. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM23405 科目ナンバリング：LIH-PHI625J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガールの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガールの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガールの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガールの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業は対面あるいはオンラインで進める。

1. 「現象学」と「存在論」 1

2. 「現象学」と「存在論」 2

3. 「現象学」と「存在論」 3

4. 「現象学」と「存在論」 4

5. 「現象学」と「存在論」 5

6. 「現象学」と「存在論」 6

7. 「現象学」と「存在論」 7

8. 「現象学」と「存在論」 8

9. 「現象学」と「存在論」 9

10. 「現象学」と「存在論」 10

11. 「現象学」と「存在論」 11

12. 「現象学」と「存在論」 12

13. 「現象学」と「存在論」 13

14. 「現象学」と「存在論」 14

15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：授業時に指示する。サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

10. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM13210 科目ナンバリング：LIH-PHI626J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：感情と価値（倫理学原典講読・フランス語）

2. Course Title (授業題目) : Emotion and Value: Reading Texts of Ethics in French

3. 授業の目的と概要： クリスティヌ・タポレ『感情と価値』(Christine Tappolet, Emotions et valeurs, PUF, 2000)から、序章と第五章の抜粋を読みます。

この本は、「感情とは何か」「価値とは何か」「感情とは、価値を認識するためのツールなのだろうか」といった問いを論じています。序章では、これらの問いの重要性が明確に提示され、第五章では、感情についての主要な理論が簡潔に説明されます。これらの問いを考えるための基本を押さえるうえで格好のテキストです。フランス語も簡明です。

文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。また、希望に応じて、簡単なフランス語発音講座も行なう予定です。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course we read some excerpts from the introduction and chapter 5 of Christine Tappolet's Emotions et valeurs (PUF, 2000). The key themes covered are: emotions, values, epistemic role of emotion.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

価値や感情といった主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar Ⅳ)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM23210 科目ナンバリング：LIH-PHI627J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading the Correspondence between Elizabeth and Descartes

3. 授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、感情（情念）を論じた箇所を抜粋して読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, we read excerpts from the correspondence between Descartes and Princess Elizabeth and examine their philosophical discussions. Through this examination, we aim to understand mind-body problem, 17th century ethics, and the core problems of (early) modern philosophy.

5. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to reconstruct arguments from them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。

『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

フランス語学習については初級～中級まで参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：倫理学研究演習V／ Ethics (Advanced Seminar V)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15206 科目ナンバリング：LIH-PHI628J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習V】

1. 授業題目：倫理学における論証（1）規範倫理学

2. Course Title (授業題目)：Arguments in Normative Ethics

3. 授業の目的と概要： 学問において主張には理由づけ（正当化、論証）が欠かせません。それは、幸福や道徳といった、一見すると捉えどころのない主題を扱う倫理学においても同じです。この演習では、倫理学のなかでもとりわけ規範倫理学の議論を対象として、そこから論証を取り出し、再構成し、成否を検証していきます。自分でも論証を作れるようになることが目的です。

「論証するとはどのようなことか」という、ごく初歩的なところから始めて、倫理学における論証を、単純なものから順を追って見ていきます。倫理学の予備知識は不要ですが、倫理学の基礎知識は前提します（演習内では説明しないということです。私の「倫理学の基礎」を受講済みであれば準備としては十分です。未受講の場合でも、こちらの指定するテキストを数十ページ読んでいただければ大丈夫です）。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this exercise, we will take some texts from normative ethics and reconstruct arguments in them. Students will learn how to examine arguments in ethics and how to make arguments by themselves.

No prior knowledge of logic is necessary, but a basic knowledge of ethics is required.

5. 学習の到達目標：(1)規範倫理学の議論から論証を再構成し、成否を吟味できるようになる。

(2)自分でも倫理学に関わる論証を作れるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to help students learn how to examine arguments in ethics and offer good arguments by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：イントロダクション

第二回：議論とは何か(1)

第三回：議論とは何か(2)

第四回：功利主義を擁護する議論(1)

第五回：功利主義を擁護する議論(2)

第六回：功利主義を擁護する議論(3)

第七回：条件法とは何か(1)

第八回：条件法とは何か(2)

第九回：条件法とは何か(3)

第十回：義務論を擁護する議論(1)

第十一回：義務論を擁護する議論(2)

第十二回：義務論を擁護する議論(3)

第十三回：徳倫理学を擁護する議論(1)

第十四回：徳倫理学を擁護する議論(2)

第十五回：徳倫理学を擁護する議論(3)

8. 成績評価方法：

平常点と課題により総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布する。以下は参考書と、扱う予定のテキスト。

【参考書】

野矢茂樹『新版 論理トレーニング』

Maralee Harrell, What is the Arguments? (MIT Press, 2016)

【扱う予定のテキスト】

カタジナ・デ・ラザリ＝ラデク、ピーター・シンガー『功利主義とは何か』

カント『道徳形而上学の基礎づけ』

ジュリア・アナス『特は知なり：幸福に生きるための倫理学』

10. 授業時間外学習：課題テキストを熟読し、演習内での議論に備えて事前に論証を分析しておくこと。

参考書のうち前者に自身で取り組むことが望ましい（質問があれば喜んで答えます）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics (Advanced Seminar VI)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM25204 科目ナンバリング：LIH-PHI629J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：倫理学研究演習VI】

1. 授業題目：幸福、死、そして人生の意味をめぐる諸問題
2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Death and the Meaning of Life
3. 授業の目的と概要：この演習では、まずは、幸福や死、人生の意味といった問題について、入門的なテキストや、代表的な哲学者による論文を読み、それらについて議論します。それを踏まえて全員にレポートを書いてもらい、後半は発表演習とします。
初回に（参加人数を勘案しながら）予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on philosophy of well-being, death and the meaning of life. After reading some introductory texts, students are to submit essays on these issues. The classes of the last half of the semester will be devoted to presentations by students and general discussion.
5. 学習の到達目標：(1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
(2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回以降：発表と議論

取り上げる予定のテキストは以下のとおり：
カタジナ・デ・ラザリ＝ラデク、ピーター・シンガー『功利主義とは何か』第三章「われわれは何を最大化すべきなのか」
シェリー・ケーガン『死とは何か』第七章と第八章
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
すべてプリントで配布する。
10. 授業時間外学習：対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし